

# キャリア教育を基盤とした、小・中及び地域との連携

～地域の「人・もの・こと」とのかかわりを通して～

【山口市 白石中学校区】

## 地域の概要

白石中学校区は、県政・市政の中核的機関や官公署が集まる、旧市内の中心に位置しています。本中学校区には、附属小・附属小・山口高校や、白石地域交流センター・市民会館・山口情報芸術センター・市立図書館・歴史民俗資料館・県立図書館・美術館・博物館・埋蔵文化財センターなどの教育・文化施設が集中しています。

人口	10,618人	
世帯数	4,771世帯	
対象校及び児童生徒数	白石中学校	291人
	白石小学校	659人

また、旧国道9号が校区の中央を南北に走り、主としてその東側は商店街、西側は学校・官公署・住宅地となっています。本中学校区は、北に隣接する大殿中学校区とともに、大内氏が威勢を誇り、西の京といわれた時代から江戸時代・幕末を経て、明治維新に至る遺跡旧跡が各所にあります。戦国城址鴻ノ峰と、伝説を秘めた亀山公園を背にした本中学校区は、名実ともに古都山口市の中心に位置しているといえます。

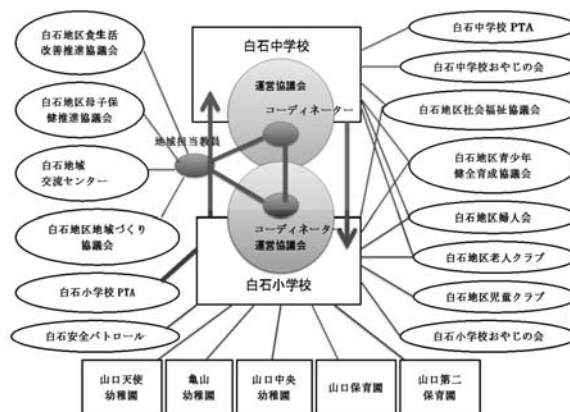
## 組織の内容

白石小・中学校は、平成23年度からコミュニティ・スクールとして、それぞれ学校運営協議会を組織しています。自治会連合会長、地域交流センター所長や、地域の方々をはじめとした有識者、PTA代表等で構成されています。

小学校では、白石地区地域づくり協議会の事業にPTAが参加し“あいらぶ白石”事業を展開し、小学校の総合的な学習の時間との連携を図っています。また、今年度は、「おやじの会」主催による「防災キャンプ」を6年生児童対象に実施しました。PTAや地域交流センターと連携し、防災について学ぶ良い機会となりました。

中学校では、地元企業や事業所等と連携した教育活動として、職場体験を行っています。運動会などの学校行事や授業参観日には、地域の諸団体の方を招き、評価をいただくなどして「開かれた学校づくり」を進めています。

このように、白石小・中学校は、多くの地域の方々に支えられ、安心して特色ある教育活動を行うことができていると言えます。



白石地域協育ネット

## 特色・重点的な取組

### ○小・中合同学校運営協議会の開催

小・中学校がそれぞれで取り組んでいる教育活動を共通理解し、共同実践していくために、小・中合同で学校運営協議会を本年度2回開催しました。会では、お互いの教育活動を紹介し、小学校から中学校まで連続した教育活動を行う必要性を改めて認識することができました。また、地域の安全上の問題点や共通の課題も共有することができました。

### ○小・中教職員・学校運営協議会委員合同研修会

今年度も、小・中教職員と学校運営協議会委員との合同研修会を開催しています。小学校・中学校の教職員だけでなく、地域の代表である学校運営協議会委員と一緒に、「地域でどのように子どもを育むか」について真剣に協議しました。PDCAサイクルのもと、2学期からの実践項目を各部会に分かれて協議し、早速、共同実践に移しました。

### ○小学校の「夏休み学びっ子教室」に、中学生が先生役として参加

中学生が、先生役として学習支援を行いました。児童生徒ともに、目を輝かせて活動することができました。

## 主な活動の紹介

### ○小中連携

- ・中学校教員が小学校に出向き、出前授業を実施しました。（音楽・英語等）
- ・小学校教員が、毎週水曜日に中学校に出向き、英語の学習にT2として入っています。
- ・6年生が中学校を訪問して、オープンキャンパス（学校紹介・体験授業・部活動見学など）に参加したり、中学校体育祭での6年生種目に参加したりしました。
- ・児童生徒の情報交換を細やかに行う小・中連絡会を開催しました。
- ・小・中教職員合同研修会を学校運営協議会委員との合同研修会として開催し、部会別協議を行いました。
- ・中学生が小学校の「夏休み学びっ子教室」の先生役として学習の補助をしました。

### ○キャリア教育を基盤とする連携

- ・ねらいを「あこがれづくり」と「自分づくり」として明確化・共有化しました。
- ・小学校では、「働く人とのかかわり」「様々な立場の人とのかかわり」「子ども相互のかかわり」など、人との多様なかかわりを整理・明確化し、その充実を図りました。（あこがれの広がり）
- ・中学校では、「より現実的な生き方の探索」をねらい、職業講話・職場体験等において、「やまぐち教育応援団」登録の事業所等にもご協力いただき、講話内容や体験内容を中学校と各事業所等とが共通理解して取り組みました。（あこがれの深まり）
- ・小学校では2分の1成人式、中学校では立志式を行い、夢や志を育てていくことに取り組みました。

### ○地域とのかかわりの広がり

- ・小学校では、縦割り班（全学年で構成した48の小集団）での「ふれあいウォークラリー」を実施しました。各班で校区内を歩きながら「働く人へのインタビューや商店街での活動」「ネイチャービンゴ」など、地域とのかかわりを深めるチャレンジ課題に取り組みました。6年生の総合的な学習の時間と絡めて子どもたちの思いを生かし、なおかつ地域との連携を図りながら充実した活動を行うことができました。
- ・中学校では、生徒会が中心となって、JRC（青少年赤十字）活動としての地域清掃を毎月行いました。休日に多くの生徒が集まり、地域のごみ拾いや落ち葉清掃などを行いました。10月には、小・中・地域が一体となってパークロードの清掃を行いました。一方で、地域交流センターが主催する「白石フェスティバル」、社会福祉協議会が開催する「敬老会」に、中学生がボランティアスタッフとして参加するなど、相互交流を深めています。



地域ボランティア清掃

## 成果と課題

中学校教員の小学校での出前授業や、小学校6年生の中学校授業体験、さらには中学生による小学生の学習支援など、活発に小・中・地域の交流を行いました。また、学校運営協議会の委員にも参加いただき、小・中教職員合同研修会を開催して2学期からの実践項目を設定したり、小・中・地域一帯となって地域のボランティア清掃を行ったりするなど、小・中・地域の連携を強める取組を実現することができました。

このような学習や取組を通して、児童生徒は、今まで以上に白石地域に愛着をもつようになってきているとともに、教職員・地域の方々も、9年間という長い目で白石地区の子どもを育てていこうとする意識が一層高まってきました。今後は、地域とともに小中連携を更に進めながら、小学生が中学生に「あこがれ」をもち、中学生は地域の大人に「あこがれ」をもつなど、「あこがれ」の輪が広がっていく取組を、更に充実させていくことが課題です。

## 今後の取組

小中連携やキャリア教育を基盤とした連携や地域との連携では、様々な取組を行い、成果も上がっています。今後は更に、小・中学校それぞれが行ってきた教育活動を共通理解し、その中から共同実践できるものや小・中が連携して取り組むべきものを再認識したり、今年度の共同実践をよりよいものにするための振り返りを行ったりしていく必要があります。また、地域との連携を促進していくためには、地域コーディネーターの存在が欠かせません。今後は、他地区の先進的な取組も参考にしながら更に研究を重ね、地域コーディネーターや小委員会を有効に活用するなど、より一層の小・中・地域連携教育を推進していきたいと思っております。